

学校評価アンケートに関する考察

※教職員 14 名、保護者 143 名、児童 150 名が回答

- ・学校行事や体験活動など特色ある教育活動を行っていくために、行事の精選、内容の見直しを行い、充実した行事としていく。
- ・地域の人材活用や施設自然を生かしきれていないと保護者の 4 分の 1 が回答しているので、人材発掘と活用促進するために、情報収集し地域に根ざした学校として活動していきたい。
- ・学校だよりや学年だより、ホームページ等をとおして、学校の情報は幅広く伝えられている。常に最新情報を届けられるように努力していきたい。
- ・毎月施設の安全点検を実施し、けがの予防には万全を期している。交通事故や不審者対策としては、注意を促し、登下校時には、不定期ではあるがパトロールを実施するなど事故防止に努めている。防災訓練は、シェイクアウト訓練を含めて、年間 7 回実施しており、命を守る教育をこれからも継続していきたい。
- ・家庭との連絡について、約 2 割の保護者は、不十分であると感じているので、連絡帳や電話連絡、家庭訪問等をとおして、日常的に家庭と連絡を取り合っていきたい。
- ・毎月「大平っ子アンケート」をして、教育相談活動を行い、いじめの早期発見に努めているが、約 2 割の保護者は否定的な回答である。いじめは許されない行為であるという共通認識のもと、子どもの小さなサインを見逃さず、適切な対応を心がけていきたい。
- ・個に応じたきめ細かな指導が行われていないと、約 3 割の保護者が感じている。つまづきのある個所を把握し、休み時間等を利用した個別指導、ドリルタイムを充実させる等きめ細かな指導をしていく。
- ・学力向上については、授業はもちろんのこと、家庭学習も重要な部分を担っている。授業には概ね意欲的に取り組んでいるが、家庭学習に対しては、学校 30 %、保護者 35 %、児童 22 % が否定的な回答であった。学年によって時間の差はあるものの、家庭においても机に向かう習慣を身につけ、学力向上につなげたいと考える。
- ・明るい挨拶や適切な言葉遣いについては、児童は 83 % ができていると感じているが、学校と保護者は 2 割以上が否定的な回答である。家族だけでなく、地域の方や先生方、来客に対して挨拶の大切さを話し、一社会人としての生活へとつなげていきたい。
- ・望ましい食生活については、学校は半数以上、保護者と児童は約 3 割が否定的な回答である。苦手な食べ物を一口でも食べたときや、給食を完食したときの励ましの声かけ等、家庭と連携しながら、食育を進めていきたい。